2023年２月１９日　聖日礼拝

2月19日　聖日礼拝

前奏
招詞　詩篇46篇10節
「やめよ。知れ。わたしこそ神。わたしは国々の間であがめられ地の上であがめられる。」アーメン
賛美　聖歌２２０（１，２，４）
賛美　鹿のように（２回）
主の祈り
交読　詩篇１３９篇１～12節
礼拝祈祷
使徒信条
聖書朗読　ヨハネの福音書　14章16～19節　21章１～14節
説教　湖畔での親交　田中英師
賛美　聖歌６５４
献金
頌栄　聖歌３７６
祝祷
報告
後奏　感謝祈祷

■聖歌２２０「愛するイエスよ」（１，２，４節）

①愛するイエスよ　かくまいたまえ　嵐の中の　かよわきわれを
　波風やみて　あまつ港に　ついに安らに　落ち着くまでは

②ほかに隠れ家　持たぬわが身は　ただ なれ一人　頼みとぞなす
　よるべのなき身　置き去りにせず　おおいたまえや　なが翼もて

④わが罪　咎（とが）は　いとおおけれど　ゆたけき愛は　覆い尽くせり
　泉なる主よ　われに沸きいで　ひたしたまえや　とわのいのちに

■鹿のように

谷川の流れを慕う　鹿のように　主よ　わが魂　あなたを慕う
あなたこそ　わが盾　あなたこそ　わがちから
あなたこそ　わが望み　われは　主を仰ぐ

■主の祈り　　天にましますわれらの父よ。ねがわくは　御名（みな）をあがめさせたまえ。御国（みくに）をきたらせたまえ。御心（みこころ）の天になるごとく、地にもなさせたまえ。われらの日用（にちよう）の糧（かて）を今日もあたえたまえ。われらに罪をおかすものを　われらが　赦すごとく、われらの罪をも赦したまえ。われらを　こころみにあわせず　悪より救いいだしたまえ。国と力と栄えとは　かぎりなく　なんじのものなればなり。アーメン

■交読　詩篇１３９篇１～１２節

1　主よ　あなたは私を探り　知っておられます。
2　あなたは　私の座るのも立つのも知っておられ
　遠くから私の思いを読み取られます。
3　あなたは私が歩くのも伏（ふ）すのも見守り
　私の道のすべてを知り抜いておられます。
4　ことばが私の舌にのぼる前に　なんと主よ
　あなたはそのすべてを知っておられます。
5　あなたは前からうしろから私を取り囲み
　御手を私の上に置かれました。
6　そのような知識は私にとって
　あまりにも不思議　あまりにも高くて　及びもつきません。

7　私はどこへ行けるでしょう。あなたの御霊から離れて。
　どこへ逃（のが）れられるでしょう。
　あなたの御前を離れて。
8　たとえ　私が天に上っても　そこにあなたはおられ
　私がよみに床（とこ）を設けても　そこにあなたはおられます。
9　私が暁（あかつき）の翼を駆（か）って
　海の果てに住んでも
10　そこでもあなたの御手が私を導き
　あなたの右の手が私を捕らえます。
11　たとえ私が　「おお闇よ　私をおおえ。
　私の周りの光よ　夜となれ」と言っても
12　あなたにとっては　闇も暗くなく
　夜は昼のように明るいのです。
　暗闇も光も同じことです。

■使徒信条　　われは天地のつくりぬし、全能の父なる神を信ず。われはそのひとりご、われらの主、イエス・キリストを信ず。主は聖霊によりてやどり、おとめマリヤよりうまれ、ポンテオ・ピラトのもとにくるしみをうけ、十字架につけられ、死にてほうむられ、よみにくだり、三日目に死人のうちよりよみがえり、天にのぼり、全能の父なる神の右に座したまえり。かしこよりきたりて　生けるものと死にたるものとを　さばきたまわん。われは聖霊を信ず。聖なる公同の教会、聖徒のまじわり、罪のゆるし、からだのよみがえり、とこしえのいのちを信ず。アーメン

■聖書朗読　ヨハネの福音書　１４章１６～１９節、２１章１～１４節

ヨハネの福音書 14 章

16　そしてわたしが父にお願いすると、父はもう一人の助け主をお与えくださり、その助け主がいつまでも、あなたがたとともにいるようにしてくださいます。

17　この方は真理の御霊です。世はこの方を見ることも知ることもないので、受け入れることができません。あなたがたは、この方を知っています。この方はあなたがたとともにおられ、また、あなたがたのうちにおられるようになるのです。

18　わたしは、あなたがたを捨てて孤児にはしません。あなたがたのところに戻って来ます。

19　あと少しで、世はもうわたしを見なくなります。しかし、あなたがたはわたしを見ます。わたしが生き、あなたがたも生きることになるからです。

ヨハネの福音書 21 章

1　その後、イエスはティベリア湖畔で、再び弟子たちにご自分を現された。現された次第はこうであった。

2　シモン・ペテロ、デドモと呼ばれるトマス、ガリラヤのカナ出身のナタナエル、ゼベダイの子たち、そして、ほかに二人の弟子が同じところにいた。

3　シモン・ペテロが彼らに「私は漁に行く」と言った。すると、彼らは「私たちも一緒に行く」と言った。彼らは出て行って、小舟に乗り込んだが、その夜は何も捕れなかった。

4　夜が明け始めていたころ、イエスは岸辺に立たれた。けれども弟子たちには、イエスであることが分からなかった。

5　イエスは彼らに言われた。「子どもたちよ、食べる魚がありませんね。」彼らは答えた。「ありません。」

6　イエスは彼らに言われた。「舟の右側に網を打ちなさい。そうすれば捕れます。」そこで、彼らは網を打った。すると、おびただしい数の魚のために、もはや彼らには網を引き上げることができなかった。

7　それで、イエスが愛されたあの弟子が、ペテロに「主だ」と言った。シモン・ペテロは「主だ」と聞くと、裸に近かったので上着をまとい、湖に飛び込んだ。

8　一方、ほかの弟子たちは、魚の入った網を引いて小舟で戻って行った。陸地から遠くなく、二百ペキスほどの距離だったからである。

9　こうして彼らが陸地に上がると、そこには炭火がおこされていて、その上には魚があり、またパンがあるのが見えた。
10　イエスは彼らに「今捕った魚を何匹か持って来なさい」と言われた。
11　シモン・ペテロは舟に乗って、網を陸地に引き上げた。網は百五十三匹の大きな魚でいっぱいであった。それほど多かったのに、網は破れていなかった。
12　イエスは彼らに言われた。「さあ、朝の食事をしなさい。」弟子たちは、主であることを知っていたので、だれも「あなたはどなたですか」とあえて尋ねはしなかった。
13　イエスは来てパンを取り、彼らにお与えになった。また、魚も同じようにされた。
14　イエスが死人の中からよみがえって、弟子たちにご自分を現されたのは、これですでに三度目である。

■聖歌６５４「いちど死にしわれをも」

①一度 死にしわれをも　イェスは生かしたまえり
　咎（とが）と罪の代わりに　新たなるいのちあり
※時の間(ま)をも惜しみて　君は　われと語ろう
　君は　われをはなたず　われはまた 主にぞつく

②流れ落つる涙も　肩に にのう 荷物も
　君は知りてあわれみ　愛の御手 のべたもう

③うめき叫ぶ夜(よ)はなし　罪と えにし 断ちし身
　み座に近く安らい　あまつ歌 つねに聞く

④やめるわれに手を置き　弱きところ 強くし
　まがに 幸（さち）に励ます　主イェスこそ 神にませ

■頌栄　聖歌３７６「父　御子　御霊の」

父・御子・みたまの　おおみかみに　とこしえかわらず
御栄(みさかえ)あれ　御栄(みさかえ)あれ　アーメン